

# 福祉のひろば 4

2017

特集

福祉現場に春風がやってくる！

～わたしたち4月から福祉現場ではたらきます！～

編集 総合社会福祉研究所

## 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

# 京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

## あなたも研究所の会員になりませんか!?

総合社会福祉研究所は、1988年に開設され、来年、2018年には創立30年を迎えます。1988年とは、宮崎駿映画の『となりのトトロ』が上映された年ですが、もっと重要なことは「消費税」が導入された年でもあることです。総合社会福祉研究所の会員には、〈個人会員〉〈賛助会員〉〈団体会員〉があります。昨年、団体会員がやっと三桁になりました。

研究所では、社会福祉の情報と研究の交流がおこなわれていますが、それらは個人や団体の幅広い参加で形成されています。貧困問題研究会、福祉教育研究会、その他、時々の調査や政策研究などを実施しています。夏と冬には、社会福祉研究交流集会を開催し、全国的な交流の場ともなっています。

例年、講座を二つの地域で開講しています。京都での「いきいき社会福祉講座」、大阪での「社会科学・社会福祉基礎講座」です。他に、釜ヶ崎短期留学、陸前高田学校など、年間を通じてさまざまな取り組みをおこなっています。

また社会福祉関係の資料収集活動はホームページなどで公開しています。今年から、研究紀要（『総合社会福祉研究』）を電子書籍で無料配信することになりました。

総合社会福祉研究所の年会費は、9280円（月刊誌『福祉のひろば』費用込み）です。

読者のみなさん、ぜひ、研究所の会員になって、全国の会員のみなさんと交流しませんか？

（総合社会福祉研究所 理事長 石倉康次）

※研究所の詳細は、ホームページを参照ください。

# 総合社会福祉研究所

TEL06-6779-4894

<http://www.sosyaken.jp/>

FAX06-6779-4895

E-mail:[mail@sosyaken.jp](mailto:mail@sosyaken.jp)



ホシバル

「あしたの運動会お天気やで」  
「ほんま？ おかあちゃん」  
「ああ、こんなにきれいにホシバツテルから」

私の予言どおり運動会は、  
雲一つない澄みきった秋晴れ  
でした。

京都の空は、山に囲まれた  
盆地だから、なんとなく小さ  
く、そして星も小さいけれど  
澄みきった夜空に散りばめら  
れた星は、チカチカと明滅し  
ながら本当に、精一杯張り輝  
いている。……

（早川ゆきエッセイ・

神門やすこ画『寒月』より）



### 落ちていたりんご

澄んだ夜空に、星の光がくっきり浮き出て来ると京都の秋もいよいよ深くなる。朝夕がうっすら寒くなり、ついこの間まで目も眩むような暑さが、まるで嘘のようである。

真夏日の記録的な日数のお陰で、一杯の太陽を浴びて果物の豊作は予想以上とか、ありがたいことである。……

この「落ちていたりんご」のエピソードは、早川一光・幸恵夫妻が、結婚して初めて迎えた秋のこと。大学の近くの下宿がそのまま夫妻の住まいとなったが、六畳一間の下宿にはお風呂はなく、街のお風呂屋さんに通っていました。当時の風呂代が一二元。それもなかなか工面できず、週に一回か二回行くのがやっと。そんななかで、風呂の帰りにたまたま、道にりんごが落ちていた……。そのときの思い出を幸恵さんが綴られたものです。



### しまい天神

今年は十一月になっても気温が高く、秋の長雨も京独特の、夜明けに走る北山時雨も少なく、十二月に入っても今迄のような師走の実感が湧いてこない。

でも確実に時は流れ、今日はもうしまい天神、一年の締めくり、なんかよいことに会いますよう。……

お二人が結婚した当時、夫・早川一光さんの診療所は地域の人たちの要望でようやく設立はされたものの、健康保険の患者さんの治療費は三か月遅れでやっと入ってくる状態で、その間の薬品の購入、医療機器の買入れ、看護婦さんの給料は全額、銀行からの借り入れでした。責任者である夫の給料まで廻ってこず、幸恵さんは嫁入り道具の着物を質に入れますが、流れていきます。その着物が、なんと、しまい天神の店先に吊されていたのです。それを見た母親が「間違いない。私がお前に縫うた着物や。天神さんのお引き合わせや」と、どうしてここにあるのかは聞かず、黙って買い戻してくれた、というお話です。

或る死

「わしはもうこの家では死ねんのか」

いよいよ老人ホームへ行くという朝、九十七歳の政一まさかずさんは、九十四歳の奥さんに聞くと、

「もう誰も世話でけへんのや。わても体がよわってしもたし」

政一さんはそれ以上何も言わずに息子さんの車で、山里はなれた老人ホームへ入所して行った。



早川幸恵さんのエッセイ『寒月』は、全二七篇 早川一光さんと幸恵さんの体験と想い、そして神門やすこさんの挿絵で構成されています。早川夫妻と神門さん、そして私、衣笠で何回も打ち合せて作り上げました。大人の絵本です。あなたも「この世界」に入ってみませんか？。

〔寒月〕は、福祉のひろばホームページからお申し込み下さい。

（編集主幹 黒田）



●特集● 福祉現場に春風がやってくる！

座談会

10

学生／大能優希、小林万真、南明日香、松本真梨子、  
美木悠利江、弓場早織、山岡あい

司会／赤塚千代香、佐野文哉

座談会をふりかえって

高倉 弘士 26

ワクワク、生き生きした人生に

石本 悦二 30

あなたの存在は、私たちの生活のなかにあるのだから！

黒葛原富士子 34

新設保育園に向けての30人職員採用大作戦！！

椎名 朝美（文）／中村 嘉宏（写真） 40

●トピックス●

保育士の賃金はなぜ低い!?

46

福祉職における専門性を考える いずみ野福祉会専門研究会

48

学童保育も市場化？

——セレブ・準セレブ学童の実態から——

50

◆ひろば読者会◆高槻ブロック

54

第23回社会福祉研究交流集会 in 東海

55

●連載●

フォーラム

石倉 康次 58

新たに『福祉のひろば』をお読みくださるみなさま

2017年度も引き続きご講読していただける読者のみなさまへ

施設から子どもたちの未来をきりひらく

子どもたちの未来への希望を支えて

小倉 康司 60

相談室の窓から

G君の気になる行動(2)「駅の名前」へのこだわり 青木 道忠 62

育つ風景 保育の現場ではほんとに人が足りません！ 清水 玲子 64

「助けて！」って言ってもええねんで！

春は、さようならと新しい出会いの季節

徳丸ゆき子 66

全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ

二人の出会いから結婚へ(4)

千田勝夫・絹枝 68

映画案内

『マリーゴールド・ホテルで会いましょう』

吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて

「ジェントリフィケーションについて」シンポジウム 生田 武志 72

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

有名人を描くのじゃ！

ラッキー植松 74

ホームレスから日本を見れば

ありむら潜 76

花咲け！男やもめ

川口モトコ 77

●表紙の絵●  
神門やす子



# みなさんが 『新しい風』となって

特別養護老人ホームいのこの里 施設長 やまもと 山本 ともみつ 智光

私が働く「いのこの里」の玄関前では、ボランティアさんが育ててくれた菜の花が咲き始め、春の訪れを感じています。

みなさん、ようこそ福祉の世界へ。

福祉の仕事を選んでくれたことを心から歓迎するとともに、働く職場は違えども福祉の現場に新しい仲間を迎えることに、うれしさと心強さを感じます。

私は、二五年前に、特別養護老人ホームの寮父（今の介護職員）として、福祉の仕事の第一歩を踏み出しました。私は、福祉の学校で勉強したわけでもなく、介護の知識や技術もないまま、人の役に立ちたいという思いだけで働き始めました。身体と声だけは大きかったのですが、毎日、右往左往している私は、上司や先輩の言われるままに介護の仕事はもちろんですが、それだけではなく、職場のルールや社会人としてのいろいろも教わりました。

仕事のなかでうまくいかないことや失敗もたくさんあり、紆余曲折もありましたが、これまで職場のなかで多くのことを学び、育ててもらっていることを実感し、今にいたっています。

みなさんは、これから新しい職場での第一歩を踏み出されようとしています。どのような気持ちでおられますか？ きっと新しい職場で、どんな出会いがあるのだろうかという期待や不安が入り混じっていることと思います。そこで福祉職場の先輩として、私なりに一言、気持ちよく働くためのコツをアドバイスしたいと思います。



## やまもと ともみつ

1973年3月13日、大阪市生まれ。1992年4月より、特養介護職員をはじめ、デイサービス生活相談員、居宅ケアマネジャー、グループホーム管理者等を経験し、2005年7月1日、社会福祉法人こばと会特別養護老人ホームいのこの里施設長に就任。吹田地区特別養護老人ホーム連絡協議会代表。大阪府社会福祉協議会老人施設部会豊能ブロック常任委員。介護支援専門員、介護福祉士、福祉施設士。

私は新入職員に、「いのこの里は、みんなで話し合うこと〴〵みんなで学ぶこと〴〵みんなでつながること〴〵を大切にしている職場です」ということを必ず伝えます。職場は、ただ働く場所というだけではなく、職員同士（仲間）の人間関係で成り立っている社会的な空間だということを理解してほしいからです。

利用者や職員同士のコミュニケーションが大切であることは言うまでもありませんが、私は良い職場づくりというのは、みんなが話し合うことから始まる、と思っています。いつもニコニコして元気よくあいさつをすることから始めれば、みなさんが「新しい風」となって、職場の空気が心地よく変わっていくと思います。

これから出会う利用者や先輩などからいろいろと吸収して、人として、専門職として成長してください。そうすればきっといい仕事ができるはずです。職場づくりの主人公は、職員一人ひとりであって、何よりあなた自身ということも忘れないでください。

みなさんが生き生き働ける職場からは、きっといい仕事や、豊かな実り（実践）が生まれるはずです。そのことが私たちの仕事の誇りにつながり、利用者の幸せや生きがいにもつながり、仲間とともにすばらしさを実感できるのではないのでしょうか。

みなさんの職場で、菜の花のような笑顔が咲きほころび、すてきな実践が始まることを期待しています。

# 特集 福祉現場に春風がやってくる！

『福祉のひろば』は、二〇一六年二月号と二〇一七年一月号で、福島県の二つの高齢者施設を紹介しました。飯館村のいいたてホーム（三瓶施設長）、そして、矢祭町の矢祭福祉会ユーアイホーム（金澤施設長）です。

いいたてホームは、福島原発事故後も施設で過ごさざるをえなかった人たちのために、事業を継続してきました。「生活を支え、生きることを共にする」職員の現実のきびしさをそこで目の当たりにしました。区域外からの通勤も、たやすいものではありません。なによりも、普通の社会から疎外された飯館村のなかで過ごす人者を支えるというプレッシャーは並大抵ではありませんでした。政策的には、東京電力の賠償による事業運営補助がありますが、それも時限制度です。

数年ぶりに、若い職員が入職したことをお伝えしました。この期間にも何人かの面接をされましたが、施設長はきつぱりと施設の置かれている現状や課題とともに、冬場の通勤の困難さなどを率直に話されました。そんなきびしい条件のなかで決意して入職した若者の存在は宝のようなものです。隣町に移動した保育所に入職した保育士も同様です。地方での保育現場の保育士確保は、介護と同様、都市部での市場競争、専門職獲得競争と同じような賃金や待遇を提示することはできません。もちろん、自治体等が確保のためのさまざまな補助制度等を整えています。が、それでも都市部へ流れていく割合が高いのです。介護の場合、養成校自身が介護保険制度開始前後と比べて大